

第32期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第10回 平成30年1月31日(水)実施		
会場	クロスパルにいがた5階 交流ホール2	傍聴人	0人
会議内容	1. 開会 2. 協議事項 (1) 平成30年度社会教育関係団体補助金について (2) 第32期社会教育委員会議建議について (3) 新潟市教育委員との懇談会について (4) 第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会の分科会における実践事例発表希望調査について 3. その他 4. 閉会		
出席者	【社会教育委員】 伊井 昭夫 伊比 宗宏 小川 崇 神林 むつみ 雲尾 周 田村 祐一 鶴巻 清美 南雲 保子 本間 莉恵 横坂 幸子 渡邊 喜夫 【事務局】 古俣教育次長 三保中央図書館長 緒方域教育推進課長 五十嵐中央公民館長 大井中央図書館企画管理課長 松田中央図書館サービス課長 今井生涯学習センター所長 生涯学習センター(鈴木次長補佐, 井浦係長, 本宮副主査, 井部副主査, 玉木主事)		
会議録			
1. 開会 (事務局) ただいまから、第32期新潟市社会教育委員会議(第10回)を開催させていただきます。 なお、新潟市社会教育委員会議運営規則第9条に定める開催に必要な人数を満たしていることをご報告いたします。 当会議につきまは、会議録作成の必要がございますので、録音と写真撮影させていただきますことをご了承ください。 開会にあたり古俣教育次長がごあいさつ申し上げます。 (古俣教育次長) 皆さんこんにちは。新潟市教育次長の古俣泰規と申します。 本日はお足元の悪い中、ご参集いただきましてありがとうございます。平成28年5月からスタートいたしました第32期の社会教育委員会議も本日が最後の会議となっております。約2年間にわたり会議や視察を重ねていただき、建議の作成にご尽力を賜り感謝申し上げます。また、建議の執筆や確認作業にあたりましては、年末から公私ともにお忙しい中、ご対応いただきまして、重ねて感謝申し上げます。3月14日は、作成いただいた建議を基に教育委員と懇談をしていただくこととなりますけれども、教育委員の皆様も建議の内容について非常に注目しております。昨年同様、活発な意見交換をお願いするところです。本日は、この会議の終了後に皆様の慰労を兼ねた懇親会を予定しておりますが、私は本日は用務のため、参加することができませんでした。本来であれば懇親の場で、今までの皆様のご苦労をねぎらうところがございますけれども、このあいさつをもってご容赦いただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。 (事務局) ここからは雲尾議長に進行をお願いいたします。			
2. 協議事項			

(1) 平成30年度社会教育関係団体補助金について

(雲尾議長)

本件は、新年度予算が含まれており市議会の承認前でありますので、非公開といたしたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。

それでは、公開案件の終了後、非公開案件として再開し質疑という形で進めさせていただきます。

(2) 第3期社会教育委員会議建議について

(雲尾議長)

事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習センター副主査)

資料2をご覧ください。「建議『学びの循環』による人づくり(案)」として、建議の案をまとめております。こちらが最終案となり、本日、協議していただいてうえで最終決定をしていただきたいと思います。内容につきましては、前回の会議から今日までの間に皆さんからご連絡をいただいた修正箇所を反映しております。それから、字句を統一しております。具体的には、数字の一桁は全角、二桁以上は半角で表しています。西暦について和暦に統一しております。句読点がコンマになっている箇所があったのですが、読点に修正しています。単語ですが、「子供」は「子ども」に統一しています。「活かす」は「生かす」、「ありかた」は「在り方」に統一しております。

資料3につきましては、資料2の冊子を要約した概要版です。建議と併せて協議していただければと思います。

(雲尾議長)

ただいまの建議の内容につきまして、「はじめに」から順番に確認していきたいと思います。まず、「はじめに」です。読み上げますと時間もかかりますので、皆様からはお目通しいただき進めてまいりたいと思います。

「生かす」に統一ということですので、一番最後の行の「本建議を活かし」は「生かし」になりますね。

(生涯学習センター副主査)

そうですね。

(雲尾議長)

第1章の第1節です。1ページから3ページまででご検討いただきたいと思います。

(伊井委員)

1ページの「拡大版は34ページ参照」でいいのですが、拡大版にしても見やすいとはいえないので、もっと見やすい方法がないでしょうか。こんなに3色も入れないといけないのでしょうか。

(生涯学習センター所長)

34ページの拡大版の部分なのですが、こちらはリソグラフを使っているのですが、若干、字がつぶれて見えにくくなっていると思います。当日のものにつきましては、カラーコピーを使うともう少し文字がクリアになるのではないかと思いますので、その辺は工夫できると考えています。上段と下段に分かれているのですが、それぞれページを分けて、若干見にくくなるのですが、これを横にすると、かなり文字も大きくなりますが、いかがでしょうか。

(雲尾議長)

1ページを見ると、二つに分かれているのが分かりますよね。これをくっつけて34ページに表示しているので、ひょんなことから判明しましたが、25ページが2ページあることが分かりまして、別な話にいきますが、資料のページは25ページなのですが、この裏のページがまた25ページになっているのです。目次をご覧くださいと、「資料 調査の概略」が25ページとしてスタートしているので、紙自体は25ページなのですが、「中央図書館ボランティア」は26ページからスタートしないとい

第3 2期新潟市社会教育委員会議

けないわけです。そこを修正していただくとすると、これは実は35ページということになるのですが、いづれにしても、表裏になってしまうので、見にくいといえれば見にくいですね。

(神林委員)

表裏になるのですか。

(雲尾議長)

このままでいくと表裏になってしまうので、空白のページを設けるか。

(神林委員)

A3で折り込んではいかがですか。

(雲尾議長)

そうするか、いっそのこと、資料のすぐ裏のページに持っていかですね。調査の前に入れてしまうか。調査が先にあるのが筋のような気がしますが、見やすさからいうと、資料の裏に持っていったという手はあります。25ページのすぐ裏に、現在、「中央図書館ボランティア」と「西川中学校『福祉体験学習』」のある位置に、これを横向きにして2ページにわたって入れるという形で資料の順番を入れ替える対応でいかがでしょうか。

(生涯学習センター所長)

分かりました。

(雲尾議長)

そうすると、ほぼ倍くらいの面積がとれるので、見やすくなるかと思います。

そのようなことで、拡大版は26、27ページ参照ということになるかと思います。

引き続き1ページから3ページについてお願いいたします。

(神林委員)

「何ページの拡大版を参照」ではいかがでしょうか。「26、27ページの拡大版を参照」と。

(雲尾議長)

積極的に読んでいただきたいのなら、今のご提案でいいと思います。見たい人だけというのなら、この形ですけれども、積極的に読んでいただきたいという神林委員のご提案からいうと、「26、27ページの拡大版参照」ということですね。

(神林委員)

そういう意味です。

(雲尾議長)

3ページの(4)の2段落目の3行目。「国民が生涯にわたっての能力を高めることや」の「わたっての」の「の」は取ってください。

では第1章第2節ですが、4、5、6ページあたりをご検討ください。

4ページの第2節のリード文の3段落目、4行目。「生涯わたる」は「に」挿入し「生涯にわたる」にしてください。

(伊比委員)

これを送っていただいたときに思ったのですが、5ページの4行目、「回収率は45.0%だった」と出ています。統計学的にいうと、45.0パーセントの回収率の信憑性というのはどのくらいになるのですか。というのは、皆さんは知りたいと思うのでしょうかけれども、あえて45.0という数字を出したほうがいいのかどうかということなのです。その結果に沿って議論が展開していくわけですが、大もとになるアンケートの結果というのがどの程度、これによるといえる根拠になるのかということが分からないのですが。

(雲尾議長)

アンケートを行った以上は、回収率は挙げておく必要がありますので、これは挙げないといけないだろうと思います。丁寧に書けば、回収数がいくつ、回収率が何パーセントあったということになりますが、計算すれば出るのでもいいと。4,000人の45パーセントだったので2,000人弱ということになりますので、数としては統計的にはいいのではないかと思います。ただ、これをどう細分化していく

第3 2期新潟市社会教育委員会議

かによりますので、ざっと 1,800 くらいを年代別に分けていますので、18 歳から 20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、七つくらいに分けていますから、1 階層あたり平均 200 くらいはいるだろうとなれば、数字として物は言えるのではないかと思います。

(伊井委員)

数学的にいうと、30 なら 30 で切ってしまう場合と、何点何パーセントという場合で、問題はないですか。

(雲尾議長)

少数第一位ですべて揃えていると思います。以上とか約というところだけ少数第一位まで入っていないという問いかけですよ。図 1-2 の左側でいえば 35.1 パーセントを占めている。次は 20 パーセント以上を占めているがという形で括弧括弧していますし、10 パーセント前後という形でも括弧括弧しています。5.8 パーセントと正確に挙げているということで、形の統一性ですね。

今言われたところで、「18 歳から 29 歳までの 5.8%」という表現があるのですけれども、18 歳から 29 歳という表現と、6 ページの一番最後にあるのが「18 歳から 20 代が」という表現になっていますので、これは同じことですよ。

(伊井委員)

中身が問題ではなくて書き方の問題だと思いました。

(雲尾議長)

第 2 章に入ります。第 2 章第 1 節、7 ページですけれども、分かりやすいかと思い、①や②を入れたのだけれども、図の中の丸が消えていますね。入っていませんよね。

(生涯学習センター副主査)

入っておりません。画像の差替えが反映されておりませんでした。すみません。

(雲尾議長)

画像を変えたので、「①→②→③→④→・・・」の意味があるのです。画像の中に、学ぶの前に①があつて、活動するが②、成果・手応えが③、さらなる学びが④、さなる活動が⑤、さなる成果等が⑥ということで数字を入れてあるのです。図を差し替えてもらうか、この図ところに①、②、③、④、⑤、⑥を入れてもらえればいいと思います。

(小川委員)

一つ、すごく細かいことなのですが、7 ページの 1 行目、「はじめに」と、2 段落目、「学習成果を生かす」、同じ鍵括弧で始まっているのですけれども、マスの使い方が違いますよね。

(雲尾議長)

これは、以下のように述べているという引用なので、次は一マス上げてあるということですね。

(小川委員)

鍵括弧で段落が始まる場合、下げる場合と下げない場合がありますよね。

(雲尾議長)

下げる場合と下げない場合というよりも、パソコンの処理で出てしまうパターンが一番多いです。小川委員がおっしゃるような疑問があるので、引用部分を 2 マスくらい下げますか。

(小川委員)

インデントを全体的に 2 マスカ 3 マス下げってしまったほうが。

(雲尾議長)

この引用の鍵括弧、「学習成果を生かす」から「(14 頁)」のところまでを 2 マス下げて、行を増やすとこのページは危ないので、2 マス下げて、引用であることが分かりやすくしていただきたいと思っています。

それでは、8 ページの第 2 節です。第一段落の最後の「さす」、これは「指す」ですね。漢字で統一しているかと思います。

その次の段落の 3 行目、「(例えば子どもは)」は「(例えば子どもは)」としてください。

9 ページ第 3 節をご検討ください。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(鶴巻委員)

9ページ上から4行目の、「社会貢献に・自己実現を果たし」の「果たし」と、その下の「これらの循環は果たして個人の中に溜まるのであろうか」の「果たし」はひらがなでもいいのではないかと。それから、下の四角のところは「子供」になっていますけれども、これは修正しないのですね。

(雲尾議長)

これは引用ですので、やむを得ないということですね。

(田村委員)

「果たして」は、辞書ではどちらでもいいことになっています。

(鶴巻委員)

4行目と5行目の。

(田村委員)

自己実現を果たしということと、これからの循環を果たしてというのは、辞書を見ると、どちらでもいいことになっています。

(伊比委員)

これをひらがなにすると、「循環ははたして」と「はは」とつながるので、読み手からすると漢字のほうが読みやすい気はします。

(雲尾議長)

「果たして」は取ってもいいのですけれどもね。

(鶴巻委員)

このままで。

(雲尾議長)

取りましょう。「果たして」は削ると。「これらの循環は個人の中に溜まるのであろうか」にしておきましょう。

(小川委員)

その後の、「これらの活動を受けた他者は」というのは、若干、分かりにくい気がするのですが。「これらの活動を受けた他者」というのは、循環的に学んでいる人から何かされた人ということですか。

(雲尾議長)

そうですね。

(小川委員)

若干、分かりづらいかなど。意味としては分かるのだけれども。

(雲尾議長)

改編案を出していただければ。

(小川委員)

改編案は思いつかないです。

(鶴巻委員)

「これらの活動を受けた他者は」の「他」を除いて「これらの活動を受けた者」ではだめですか。やはり「他者」のほうがいいのですね。

(小川委員)

「他」か「者」というよりは、「活動を受けた」の部分でしょうか。特にほかの方が違和感がなければ。一人で違和感を感じているだけなので。

(雲尾議長)

私も書いていて、収まりが悪いなと思っています。

(小川委員)

ある人が、循環型の学習活動をやっていて、その人から影響を受けた人という意味ですよ。

(雲尾議長)

そうですね。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(小川委員)

でも、その後に「影響を受ける」が出てきますからね。「影響を受ける」というのは、例えばどのようなイメージですか。

(雲尾議長)

例えば講師をしているとか。講師をした講座に出るでもいいわけですよ。あるいはその人のボランティア。例えばふれあいスクールにボランティアとしてやってきている人がいて、子どもたちがそれを見るとき。総合学習で聞きに行った人が、地域でこんなことを学んで、この地域はこんななんだよと教えてくれるとか。

先は長いので、次にいきましょう。第3章第1節。10から13ページまでの部分です。「『学校』を舞台にした循環型生涯学習」でご検討ください。

地域教育推進課では、子どもふれあいスクール設置小学校という考え方としているのでしょうか。実施小学校でしょうか。どちらが正しいですか。

(地域教育推進課長)

実施校と言っております。実際には、学校がかかわるわけではないのですが、実施校と言っております。

(雲尾議長)

図3-1の図の題名は実施小学校数の推移なのですが、図の中には設置小学校数と書いてあるのです。

(地域教育推進課長)

実施小学校でかまわないと思います。どちらかに統一するというのであれば、実施という言葉を使わせていただいています。

(雲尾議長)

では、図の題名のほうでいいということですね。図の中の大きい字は消してもいいということですね。

(地域教育推進課長)

そうですね。そのほうが分かりやすいと思います。

(雲尾議長)

図の中の「子どもふれあいスクール設置小学校数」という文字は削ります。そうすると、「次の延べ参加児童数」も削っていいですか。

(地域教育推進課長)

そうですね。そのほうが分かりやすいのではないかと思います。

(雲尾議長)

それでは、図3-1と図3-2の中の大きい題名は削るということでお願いします。

(地域教育推進課長)

建議をいただく側で大変恐縮なのですが、子どもふれあいスクール事業という言葉とふれあいスクールと微妙に事業の中身が違ってきます。笹口小学校の地域型ふれあいスクールを後ほど取り上げていただきますので、そう考えると、笹口小学校は子どもふれあいスクールではなくてふれあいスクールという取扱をしているものですから、そのことを考えると、(2)表題から「子ども」を外していただいて、「ふれあいスクール」で統一していただいたほうが、後ほど事例としての笹口小学校との整合がとれるのではないかと思います。

(雲尾議長)

11ページの題名の(2)の「子ども」を取ると。

(緒方地域教育推進課長)

「ふれあいスクール」で統一していただくと、笹口との整合がとれると。

(雲尾議長)

図3-1、図3-2の中にも入っている数字ということですね。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(地域教育推進課長)

笹口小学校を入れた数になっています。

(雲尾議長)

分かりました。では、表現として「ふれあいスクール」という形で進めていくということにします。

(神林委員)

そうすると、10 ページの2 段落目、「そのための事業」の鍵括弧の中も。

(地域教育推進課長)

そうですね。

(雲尾議長)

10 ページの2 段落目の「地域と学校パートナーシップ事業」の次の「子どもふれあいスクール事業」の「子ども」も取って、「ふれあいスクール事業」などが実施されていると。

(生涯学習センター所長)

10 ページの西川中学校の囲みの中なのですけれども、上から3 行目の「新潟市包括支援センター」ですが、「新潟市」のあとに「地域」を入れてください。

(伊比委員)

12 ページ(1)の1 段落目の2 行目、「教育活動に参画する活動がすすんでいる」はわざとひらがなののですか。漢字の「進」でいいのではないかと。

(雲尾議長)

そうですね。漢字ですね。「進んでいる」ですね。

それでは、第2 節、14 から18 ページまでです。16 ページに図3-3、図3-4 もありますが、図の中の大きな文字、「公民館利用者数」と「図書館個人貸出点数」は削るということをお願いします。

14 ページ1 番の「現状」の(1)の「社会教育委員会議が実施したヒアリングの結果」というものになっていますが、題名は「ヒアリングの概要」になっています。これはどちらにあわせましょうか。

(小川委員)

「概要」がいいでしょうか。

(雲尾議長)

上の文章のほうですね。「ヒアリングの概要」、「社会教育委員会議が実施した」という言葉を補っていてもいいですね。14 ページの現状の2 行目を「ヒアリングの概要」に直すと。

(神林委員)

囲みの中なのですが、最後の「とのことだった」というのは、どうなのでしょう。

(雲尾議長)

図書館ボランティアは人が話している言葉になっているが、生涯学習センターボランティアについては聴き取ったことになっているということですね。

(小川委員)

「仕組みを作る必要がある。」でどうですか。

(神林委員)

それでいいかと思います。

(雲尾議長)

課題うんぬんはいらないですね。「必要がある」と。そのあとの「との課題を抱えているとのことだった」を削るということをお願いします。

(神林委員)

その中の写真なのですが、両方とも生涯学習ボランティアセンターの写真なのです。この写真が資料として出てきているから、これは個人的な写真ですからよくないのかなと思っていたのですが、これは二つとも学習センターのほうものかと思ったのですけれども、図書館のものが後ろの参考資料で出てきますので、どうでしょう。これは、多分、同じ人のものですね。

(伊井委員)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

片方は削ったほうがいいのかもしいですね。確かに個人の顔が出過ぎていますから。

(小川委員)

あるいは、図書館のボランティアの方のお話を伺ったときの写真はありますか。

(神林委員)

これしかないのですか。

(生涯学習センター副主査)

そうなのです。

(小川委員)

それを二度使うというのはだめですか。そのときの写真はそれしかないのですか。

(事務局)

いいのはこれしかなくて、同じ物をもってくることはできると思います。

(神林委員)

生涯学習センターの写真は3枚とも同じ人の写真なのですよ。後ろの資料として入っている写真もそうだし。

(雲尾議長)

西川中も10ページと26ページは同じ写真ですよ。

(小川委員)

14ページの写真のどちらかを、後ろの写真と入れ替えるというのはどうですか。どちらがいいか分からないけれども。

(中央図書館長)

ヒアリングの写真でなくてよければ、友の会の方たちが活動しているような写真はどうか。これはヒアリングの様子と書いてあるのですけれども、こちらはLの会の説明ですので、ここで同じ写真をとるよりは、友の会のほうから写真を提供してもらって、図書館ボランティアの活動として入れるのはいかがでしょうか。

(神林委員)

いいと思います。

(三保中央図書館長)

それでは、提案してみます。

(雲尾議長)

ヒアリングの様子写真である必要はないので、ボランティアの活動風景でもいいかと思ったのですが、そうすると、Lの会が、自分たちも載せてとなるのではないかと思ったのですが、この写真は、交流と絆づくりも読み取れますからね。これである程度、発表内容が分かるし、それでいいのではないかと思います。

ちなみに、西川中は同じ写真でいいですか。

(鶴巻委員)

いいです。

(神林委員)

細かいことなのですが、14ページなのですが、プレママ学級とその囲いなのですが、下の線がいらなくて、15ページの上の囲いはいらぬのではないかと思います。

(小川委員)

パソコンの技術上、それはできますか。

(雲尾議長)

では、つながっているのが分かりやすくするというので。

(渡邊委員)

小針・青山公民館の上の3行目、「小学校への関心を深めていた」と書いてあるのですが、「深めている」のほうがよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(雲尾議長)

「『プレママ学校』とは」の最後の3行目ですね。「給食に参加することで、小学校への関心を深めていた」。ここですね。

(渡邊委員)

「小学校への関心を深めている」と。どちらがいいのでしょうか。

(雲尾議長)

その前の2行が過去形になっているから、ここも過去形になったのでしょうかね。

(神林委員)

「深めている」のほうがいいかもしれません。「深めていた」となると、一過性になってしまうような気がします。

(雲尾議長)

「感じる」、「つなげている」というところまでが講座の説明で、「自分もまた」からあとは、それを見た感想という位置づけになっているのでしょうか。2行の感想が入って、最後にまた評価しているという文章構造ではあるわけですね。そういう構造からいうと、このままにはなるのですが、執筆の方の意図はそれでいいのでしょうか。ここを書かれた記憶のある方は。横坂さんですか。そういった趣旨でしょうか。

(横坂委員)

そういう趣旨です。

(渡邊委員)

次の文章、「この活動では公民館と学校との連携や地域ボランティアによる支援があり、安定した循環型学習が行われている」ということからすると、深めているからこうなるのではないかと思ったのです。

(雲尾議長)

「見られた」、「深めていた」というのがこの講座をみられた感想ということですね。

(横坂委員)

感想で、その次が評価なのです。

(雲尾議長)

ということで、このままでお願いいたします。

(中央図書館長)

17ページの提言(1)環境づくりですが、1段落目の3行目に「わかりやすい、楽しい、興味の持続する講座」とありますけれども、公民館がただ楽しいというふうにつけられるのではないかという危惧があります。講座をするときは、やはり何らかの気づきを利用者にしてもらいたいという意味で実施するので、気づきの部分も入れてもらうといいのではないかという感じがします。それから、「また利用したいという環境」ということで、確かにまた利用してもらいたいものだけでも、学びの循環で考えると、利用だけではなくて次のステップに行くことが必要なので、この段落で次のステップに行くというのが出てきません。ですので、もう少しねらいをはっきり定めたほうがいいのではないかという気がするのですけれども、いかがでしょうか。

(小川委員)

例えば前者のご提案、「わかりやすい、楽しいだけではなく」ではいかがですか。

(中央図書館長)

そうです。何かの気づき、まちづくりや生き方などの気づきがあるという。

(小川委員)

そうすると、「楽しい」の後の「、」を取って「だけでなく」と入れれば、そういうニュアンスは伝わりますね。

(中央図書館長)

あとは「気づき」も入れてもらえるといいと思いますが、それはお任せします。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(小川委員)

入れるといたら、どこに入れますか。

(中央図書館長)

ただ、興味とかわかりやすいだけではなくて、まちづくりの気づきや人生に対する気づきとか、公民館の講座というのはそういったものをねらっているんで、いい言葉があれば。

(小川委員)

この「興味」というのは、おもしろいかということではなくて興味深いという意味だと思うので。

(中央図書館長)

「興味深い」では。

(小川委員)

まだ薄いですか。

(雲尾議長)

わかりやすい、楽しいことをやりましょうということがまず主張としてあるので、「だけでなく」にすると、それを否定するような形になるので、「わかりやすい、楽しいことに加えて」となりますね。「わかりやすい、楽しい」は提言しているので、それは入れておいて、「加えて」と。

(小川委員)

「気づきのある」というのは入れますか。

(雲尾議長)

「発見や気づきがあって興味が持続する講座やイベントを開設します」と。「分かりやすい、楽しいことに加えて、発見や気づきあって興味が持続する講座やイベントを開設します」ということでのよろしいですか。

(中央図書館長)

「利用者や講座参加者がまた利用したい、次の活動につなげたいという環境を整える必要がある」と。

(雲尾議長)

「つながる」ですが漢字がいいか、ひらがながいいかですが。

(伊比委員)

常用漢字になっているかどうかですよ。

9ページの中教審の答申はひらがなになっていますね。

(雲尾議長)

「繋がる」は常用漢字ではありません。

(伊比委員)

それでは、やはりひらがなですね。

(雲尾議長)

それでは、第3節。19ページから22ページまでです。第3節は全体的にフォーマットがずれていますので、標準を選択して修正してください。

(生涯学習センター所長)

18ページなのですが、(3)の施設間の連携の上から4行目の後段になりますが、「また、区役所や支所」と。今、支所というのはないので、「区役所の窓口」になると思います。もしくは「連絡所・出張所」となります。

(雲尾議長)

出張所はありますね。「区役所や出張所」ですか。

(小川委員)

「区役所の窓口等」でいいのではないですか。「出張所」がいらいますか。

(雲尾議長)

区役所は8か所しかないですからね。区役所へ行ける人はそもそも図書館へ行けるだろうし。出張

第3 2期新潟市社会教育委員会議

所というのはそんなにありましたか。

(中央図書館長)

いわゆる支所が出張所になりました。

(生涯学習センター所長)

中央区でも2か所出張所があります。

(雲尾議長)

「区役所や出張所の窓口等」でよろしいですか。

(神林委員)

江南区は図書館一つしかないです。

(鶴巻委員)

18 ページの下から3行目の、「ボランティア」の「イ」が大きいです。

(小川委員)

第3節に戻りますと、先ほどご指摘いただいたものとあわせると、19 ページから20 ページにかけての囲みはつながっているような処理をお願いします。

(雲尾議長)

20 ページから21 ページもそうですね。

(鶴巻委員)

19 ページの囲みの中の「大好きにいがた体験事業」の「シビックプライド」というのは一般的な言葉なのですか。皆さんがこれで分かればいいと思うのですが、どうなのでしょう。使いますか。あまり使われないですね。「新潟市への愛着と誇りを持つことが重要である」ではだめで、あえて「シビックプライド」を入れた意味があるのだったら教えてほしいのですが、なくてもいいのではないかという気がします。

(小川委員)

細かいことを言うと、新潟市への愛着は分かりますけれども、新潟市への誇りというのは少しおかしいですね。

(伊比委員)

これは学校支援課が出している文章のままですね。

(雲尾議長)

「大好きにいがた体験事業」の説明文でしょうね。

(鶴巻委員)

引用ですね。では、そのままです。

(雲尾議長)

社会教育委員のだれかが書いたわけではないということです。

(小川委員)

あえていえば、新潟市民としての誇りとか。

(神林委員)

市民に愛着をもってほしいと。

(小川委員)

引用であるということならば、そのままのほうがいいと。

(中央図書館長)

18 ページ(3) 施設間の連携のところで、先ほども少し問題になった、「区役所や支所の窓口」というところですが、実際に検討を始めていて、連絡所で予約した本が受け取れるようなことをお試しで始めています。これは、区役所、連絡所、出張所というとな煩瑣になりますので、「市民の身近な窓口で」というのはいかがでしょうか。インターネットによるというと、何を指しているのかよく分からないので、それは削除していただいて、「市民の身近な窓口で図書の貸出・返却の取扱いを検討するなど」としていただくとありがたいかと。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(雲尾議長)

多分、「インターネットによる」は貸出にしかかからないですよ。返却はインターネットにはよらないので、なくてもいいですね。

(中央図書館長)

ネットだけではなくて、地域にはネットを利用できない方たちがいるので、「インターネットによる」と限定されると。電話でもオーケーなので、削除していただいて。

(雲尾議長)

「また、市民の身近な窓口等で図書の貸出・返却の取扱いを検討する」と。

(中央図書館長)

そのほうがすっきりしていいかと思います。

(小川委員)

その検討はもう始まっているわけですか。

(中央図書館長)

試行しているところがあります。ただ、それを広げることになると、いろいろな問題をクリアしなければならないので。

(小川委員)

検討どころか、実際に施行例もあるのに、それに対して建議で検討するなどといっていると、半周遅れだよということになりませんか。

(雲尾議長)

「市民の身近な窓口」という言葉に変わったので、区役所、出張所に限らず、例えば極端な話、美術館でもいいわけですよ。「社会教育施設同士」という言葉も出てくることだし。無理やり広げれば。

(鶴巻委員)

「検討するなど」というところも変えたほうがいいのですか。

(雲尾議長)

これはこのままでいいのではないのでしょうか。

(小川委員)

「身近な窓口」ということにして。

(雲尾議長)

市民の身近な窓口はたくさんあるだろうということ。

(中央図書館長)

まだ本格実施の段階ではないので。

(生涯学習センター所長)

19 ページの一番下ですけども、「恩返しとしてのこども食堂」の「こ」は漢字ですね。

(雲尾議長)

これは悩んだのですけれども、一般名詞として完全ひらがなの場合のほうが、どちらかという和多いのですけれども、どちらかというは定着していません。どうしたものやと思っていたのですが、ふじみ子ども食堂は自分のところで漢字の「子ども」なので、これはこのままでよかろうと。一般名詞としてどちらがいいかと文部科学省も見たのですけれども、ひらがなの「こども」が中心なのだけれども、少しぶれてもいるということがあるので、そういう意味でひらがなにしたいのですが、皆さんが、ここだけこれだと気持ちが悪いということならば。

(渡邊委員)

一番下もそうですね。

(雲尾議長)

19 ページの上と下がそうなのです。わざとしてみたのですけれども、より広いのはひらがなかなという気がします。

(田村委員)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

22 ページの3の提言の(1)学童期・思春期の5行目、「そのためには、地域とかかわる機会を学校の授業として位置づける」と。授業とすると、その教科において非常に狭められてくれるので、これも広げて「教育活動として位置づける」としてはいかがでしょうか。

(雲尾議長)

22 ページの3の(1)の5行目、学校の「授業」を「教育活動」に変えるということですね。

(小川委員)

子ども問題に戻ると、これは両方ありますね。全国こども食堂ネットワークはひらがなですね。それが一番大きいと思います。朝日新聞は漢字です。

(生涯学習センター所長)

両方使えるという理解でいいですか。

(小川委員)

そうですね。

(生涯学習センター所長)

であれば、このままでもいいと思います。

(地域教育推進課長)

20 ページの中ほどの、「ほっとハウス笹口」の一つ下、「小学校の空き教室を」という記載があるのですが、「余裕教室」ということで表記統一をしていますので、「余裕」という言葉でお願いできればと思います。

(雲尾議長)

それでは、23 ページ、第4章の「まとめ」をご覧ください。

23 ページを読んでいたら、「とどまらず」がひらがなで出てきましたので、9 ページの2段落目、「個人の中に留まる」であろうかは「とどまる」に直します。9 ページの2か所を「とどまる」に直すということで、23 ページとの整合性を取りたいと思います。

(小川委員)

21 ページの(1)学童期・思春期とありまして、終わりから2行目、「将来自分たちが地域をためにつながりを生かして」の括弧の中に「隣組」と出てくるのですが、隣組というのは現在あるのでしょうか。戦時中の統制組織の隣組を思い出してしまって、今でもあるのかなど。無ければ別の言葉でいかがでしょうか。

(神林委員)

回覧板が回るのが。

(小川委員)

あれは何といいますか。

(雲尾議長)

町内会の班ですね。

(小川委員)

町内会くらいのほうがいいのではないかと。

(雲尾議長)

ここを書かれた方の趣旨は、どなたですか。

(伊井委員)

我々は古い人間ですから使いますが、正式ではないですね。班ですかね。

(雲尾議長)

ここは、地域のつながりを表す組織名がほしいということですね。

(小川委員)

町内会くらいだと広すぎますか。もっと狭い。

(伊井委員)

もっと近い範囲でしょうね。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(小川委員)

町内会の班くらいですか。隣近所のつながりとか、そんな感じですね。

(伊井委員)

今、班といたら、多くても10軒以内くらいのもですね。

(雲尾議長)

場所によって違うと思います。

(伊井委員)

私たちのところは10軒もないです。

(雲尾議長)

うちは20軒です。

(伊井委員)

それよりももっと小さい意味です。

(雲尾議長)

偶数月の日曜の朝7時から掃除している範囲みたいな。

(伊井委員)

そうですね。

(雲尾議長)

うちのほうだと、四、五軒くらいです。通りに面したところを掃除しているグループくらいというイメージだと思うのです。向こう三軒両隣くらいの感じですね。

(伊井委員)

つながりということをしているわけですから、遠くの人までつながっていませんから。何かいい言葉があったら変えてください。

(横坂委員)

つながりそうなものがないのですよね。回覧板をまわすくらいで、その中で何があるかという、雪が降るとよく分かるのですけれども、ありそうでない。町内会とかそういった単位になると分かるのですけれども、それよりもっと小さくなると、今はあるのかなと。感覚的にはない気がします。

(伊比委員)

これは課題のところで書いているので、今の小中高生たちが大人になったときにつながるための最小規模の単位を持っているかというところで、持っていないよねという話をしたいのですよね。今の大人は近所ともつきあえないのだけれども、これからの子どもたちは持ってほしいな、持たなければだめだよねという課題なのだと思うのです。今、子どもの段階では持っていないのでということですよ。

(田村委員)

括弧のところなのですが、地域の文化や伝統のつながりということなのですか。

(雲尾議長)

文化や伝統のつながりと。

(田村委員)

町内会でのと。つまり、地域の文化や伝統に同じくかかわっている子どもたちのかかわりということと、身近な距離的なかかわりということを二つ指しているわけですよ。

(小川委員)

文化や伝統の継承という意味でのつながりと、具体的な人とのつながりということであると、何か入れたがほういいですね。

(雲尾議長)

括弧を外したほうが文章が作りやすいかもしれないですね。将来、自分たちが地域の文化や伝統を受け継いだり、ご近所さんとながったりという文章にして、そこは近所の人とのつながりみたいに。文化や伝統を受け継いでいくというつながりと、人と人、家と家との地域でのつながりということを

第3 2期新潟市社会教育委員会議

文章化したほうがいいのかもかもしれませんね。

(田村委員)

地域コミュニティでのつながりというように大きくしたらまずいですか。意図的に、地域、伝統文化というところに自分が参加している集団ですよ。隣近所もコミュニティとつながるといってそちらに含まれてきますね。

(伊比委員)

先ほどおっしゃったとおりで、ご近所同士の人のつながりということですから。

(渡邊委員)

例えば老人クラブと中学生のごみ拾いを一緒にやるということがあるのですが、それに対して、自分たちが今後も地域とのつながりが本当に強くなっていくかという、少し疑問な気がします。

(小川委員)

「受け継いだり」まではいいですよ。「受け継いだり、隣人とのかかわりを深めていく」という意識までには至っていない」というのはどうですか。かかわりはあるということ。

(雲尾議長)

何をしていくかですよ。深めるだけでいいのか。生かして、何をしていくかによるので、「地域の文化や伝統を受け継いだり、隣近所との人づきあいを広げて地域活動を維持していく」という意識にまでは至っていない」と。そういった趣旨なのか。伊井委員、そういった趣旨でよろしいですか。

(伊井委員)

いいです。

(雲尾議長)

「将来、自分たちが地域の文化や伝統を受け継いだり、隣近所との人づきあいを広げて、地域活動を維持していく」という意識にまだ至っていない」と。

(本間委員)

20ページの「コミュニティ・コーディネーター育成講座」の中の「白根紋」は「白根紋り」になると思います。

(雲尾議長)

「白根紋」が固有名詞ではないですか。正式に使っているのはどちらですか。

(本間委員)

ホームページを見ると、新潟市の講座名では「白根紋り」となっています。

(雲尾議長)

新潟市のサイトでは書いてあるのですね。

(本間委員)

書いてあります。新聞にも書いてあります。

(雲尾議長)

それでは、2行目、「白根紋りをはじめとする」ということで一文字「り」が入ります。

ほかに、23ページでいかがでしょうか。

それでは、24ページの「おわりに」をご覧ください。

(小川委員)

この「おわりに」ですが、西暦を元号表記にしますか。

(雲尾議長)

ただ、ラングランは日本でしゃべっていないですからね。1965年は西暦で残し、あとは日本の話ですから、元号に直すというのが一般的ではないかと思います。

下から2段落目の2行目ですが、漢字で「学習の在り方」ですね。

2段落目の「このような中では」の「中」はひらがなで書いていたような気がします。

それでは、資料のほうもご覧いただきたいと思います。ページ数は変わりますが、中央図書館ボランティア以降を見ていただきたいと思います。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(鶴巻委員)

西川中学校の「福祉体験学習」なのですが、活動の概要、「西川中学校3年生の『総合的な学習』の時間に行う福祉体験学習『認知症サポーター養成講座』(5月～10月実施)」は、認知症サポーター養成講座自体は9月8日行いました。福祉としての学習が5月から10月なのです。ですので、この「5月～10月実施」というのは違う場所のほうがいいのではないかと思います。福祉体験学習という、総合的な学習で、認知症サポーター養成講座自体は9月8日の実施です。

(雲尾議長)

「福祉体験学習(5月～10月実施)の一環として『認知症サポーター養成講座』を行った」ということでしょうか。

(鶴巻委員)

そうですね。

(雲尾議長)

「西川中学校3年生の『総合的な学習』の時間に行う福祉体験学習(5月～10月実施)の一環として『認知症サポーター養成講座』を行った」という文章に変わるということです。

(小川委員)

形式の話なのですが、資料のところから箇条書きが出てくるのですが、箇条書きの点の次の行にわたる場合、これはこのままにしますか、下げますか。

(雲尾議長)

基本的には下がっていないのですよね。

(小川委員)

1行で終わっているところはそうなっているのですが、2行以上になっているところは下がっていないですね。

(雲尾議長)

下げると、1ページを超えるものが出てきそうですね。ですから、下げないほうがページ数は変わりません。

(小川委員)

ふじみ子ども食堂もあぶないですね。

(雲尾議長)

ということで、下げないということをお願いします。

(神林委員)

26ページの「今後に向けて」の「・」がずれていませんか。しょうがないのですね。

(田村委員)

直せるとは思いますけれども。

(雲尾議長)

これは行末の禁則処理ですね。漢字だどめいっぱい入っているのに、詰まってしまったのです。ぎりぎりに入ったので押されてしまったということです。

(渡邊委員)

26ページの下から4行目の「活かしてほしい」はこのままですか。

(雲尾議長)

西川中学校のところの、「ぜひ活かしてほしい」の「活」を「生」にするということですね。

(小川委員)

28ページの子ども食堂のところですが、「活動の概要」の二つ目の項目の学生ボランティアとあるのですが、括弧内は正式な学校名をきちんと入れたほうがよろしいのではないかと思います。おそらく新潟青陵大学と新潟県立大学が正式名だと思うので。

(雲尾議長)

地元の人には分かるけれども。「新潟」がいらいますね。

35, 36 ページの活動実績等もご置います。

「かかわる」はひらがながほとんどですので、3 ページの下から4 行目、「経済事情にかかわらず」と置します。8 ページの下から5 行目、「社会とのかかわりがなくなった」と置します。見落としがあるかもしれませんが、ひらがなのほうが多いので、「関わり」はひらがなで「かかわり」と置します。

(田村委員)

細かい話ですけれども、例えば見通しを持つ、意識を持つ、関心を持つの「持つ」はひらがなだったり、漢字だったりするので、どちらかに統一したほうがいいと思置います。

(雲尾議長)

どちらがいいでしょうか。

(田村委員)

文部科学省がひらがなを使っていますけれども、文部科学省用語で、どちらでもいいかなと思置います。

(雲尾議長)

「持つ」だけながら検索で見つかりますか。「持つて」という言葉があると。「持続的」とか別に入っていないなければ大丈夫ですね。

(小川委員)

ここの検索をして、該当のところだけ一括で変えて置しようと。

(雲尾議長)

一括で変えて置しようと困るので。

では、「もつ」はひらがなで置ということ。必ずしも手に持つだけではないということ。

ペンディングのところ、9 ページの2 段落目の1 行目、「これらの活動を受けた他者」のところをどうするかということ。

(地域教育推進課長)

言い忘れがあったのですが、2 ページの下から6 行目、「教育再生実行会議の第十次提言」のところ、提言の論題になっている言葉なので、「子供」でないといけないうのですが。「子どもを育む教育の実現に向けた」の「子ども」は固有名詞扱いで「子供」だと思われ置ます。

(雲尾議長)

では、漢字ということでお願置します。

9 ページの2 段落目1 行目はペンディングにして、概ねそのほかの部分はこれでよろしいということでご了解いただけますでしょうか。

ありがとうございました。

一部修正がまだありますが、これを社会教育委員会議の成果としたいと思置います。ありがとうございました。

これで、最終決定といた置します。建議の完成は改めて事務局より送っていただきたいと思置います。

(3) 新潟市教育委員との懇談会について

(雲尾議長)

事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習センター所長)

資料4「教育委員と社会教育委員との懇談について(案)」をご願置いただきたいと思置います。これは今回策定いただいた建議について、皆様から教育委員会へ提出し、教育委員と意見交換を置いて、社会教育について相互に理解を深め、市の生涯学習振興につなげるという趣旨で行置います。日時は、3 月14 日の午後1 時半から1 時間程度を予定置しています。参加者は教育長と教育委員8 名、社会教育委員11 名の計20 名で行置いただきます。そのほか、今回、建議策定にかかわった事務局の関係職員が同席させていただきます。

当日の流れになりますが、はじめに教育長からあいさつをいただき、次に概要説明として、雲尾議

第3 2期新潟市社会教育委員会議

長から建議全体についての説明をしていただきたいと思います。その後、内容説明ということで、各グループの代表者からそれぞれ5分程度で説明をお願いしたいと思います。このとき、概要説明及び各グループの代表者の説明につきましては、お配りしてあるA3判の概要版を中心にご説明いただきまして、必要に応じて建議本冊をご活用いただくという流れがよろしいのではないかと思います。その後、教育長、教育委員との意見交換会ということで、30分程度皆様に質疑や感想等をお話しいただき、最後に教育長からまとめていただくという流れになります。

なお、当日は、懇談会終了後、新潟市教育委員会定例会が予定されております。年度末ですので議題が非常に多いため、懇談会については1時間をお願いしたいと思います。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

懇談会についてご質問やご意見等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

懇談会では各グループでご発言する方をあらかじめ決めておきたいと思っております。学校グループ、社会教育施設グループ、地域グループ、それぞれいかがでしょうか。

学校グループは田村委員、社会教育施設グループは渡邊委員、地域グループは本間委員ですね。概要説明をしていただき、皆さんからも適宜ご発言いただければと思います。懇談会の詳細につきましては、事務局より別途案内していただきます。

(4) 第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会の分科会における実践事例発表希望調査について

(雲尾議長)

事務局よりお願いします。

(生涯学習センター副主査)

資料5をご覧ください。長野県の社会教育委員連絡協議会より、今年11月に開催される関東甲信越静社会教育研究大会長野大会の分科会で実践事例を発表しませんかという希望調査依頼がありました。大会の概要につきましては資料の2枚目です。分科会につきましては一番最後のページ、別紙3に書いてありますが、各分科会で実践事例の発表が3本あるそうです。そのうち1本を希望する都道府県や政令市から手を挙げてもらって発表していただきたいという内容です。

そこで、まず、事例発表を希望するかどうかと、もし希望するとしたら、第1から第5までである分科会の中で、どんな内容で発表するかというところを協議していただければと思います。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

これについて、ご質問等はございますでしょうか。

(小川委員)

これはだれが発表者になるのですか。というのは、今期はここで終わりですよね。ここでやりますというふうに決めても、誰がということは決められるのでしょうか。ただし、締めきりが2月なので、それまでに回答しないといけないと思うのですが、事務局としてはどういうふうにお考えでしょうか。

(生涯学習センター所長)

人は替わってしまうので、まずは、やるかどうかという話になります。

(小川委員)

やりますといった場合、来年度は5月くらいにスタートになりますよね。そのときに、ここに新たにメンバーになられた方に、誰かやってくださいという話になるわけですか。

(生涯学習センター所長)

そういう形になるかと思っております。

(雲尾議長)

あくまでも、やる人はいませんかという募集なので、やらないという選択肢もあるわけですね。

(小川委員)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

逆に、この中で、私がやりますとって、次期も社会教育委員をやりたいという希望を述べてくれる方がいらっしやれば。

(雲尾議長)

社会教育委員ではなくても参加自体はできるので、その場合、市の予算が出るかどうか分からないので、データをください、社会教育委員が発表します。ご自分で発表されたいのならどうぞ、長野まで行かれて、向こうで合流しましょうということもあり得るとは思います。

(小川委員)

希望ありの場合、内容を簡潔に書けと言われているので。

(雲尾議長)

どの分科会でやるか、やる内容は何かということなので、特にしたい方がいなければ、今回は改選期でもありますので、とりあえず見送るということも可能ではあると思います。どなたかご希望があれば優先いたします。

(中央図書館長)

事務局の私が申し上げるのは誠に僭越ですが、全国的に見て、社会教育委員の役割というのは随分弱くなっているところがたくさんあると思います。その中で、新潟市の社会教育委員というのは生涯学習推進計画に代わる建議を作ってください、その建議を基にしてまた次の建議を作ってください。その建議を作る段階でいろいろなところに行って、自ら研究をしてくださって、建議をまとめあげた。教育委員の方たちとの懇談会までやっているということは、全国的に自慢していい社会教育委員のあり方ではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(雲尾議長)

実績はありますね。

(中央図書館長)

元社会教育委員でもいいし、そのときに現社会教育委員か分からないですけれども、実践発表だったら今年の発表でもいいと思うのですけれども、ぜひ新潟に社会教育委員ありといった狼煙を上げてもらえないでしょうか。

(雲尾議長)

今のご提案ですと、第4分科会でしょうか。いかがでしょうか。

(生涯学習センター所長)

この場で結論が出なければ、締切りが2月22日ですので、その前に事務局と両議長と調整ということでもよろしいでしょうか。

(雲尾議長)

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

(1) 平成30年度社会教育関係団体補助金について

(雲尾議長)

これより非公開といたします。

— 非公開にて質疑 —

3. その他

(雲尾議長)

建議の最終版は何日提出ですか。

(生涯学習センター所長)

建議の本冊は、2月中旬くらいまでをお願いします。

(雲尾議長)

9ページについては、今すぐには決まりそうもないので、議長、副議長、事務局にらせていただくということでいかがでしょうか。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

まだ1か所、収まりの悪いところがございますので、ここを修正したいと思います。概要版自体には影響はありませんので、懇談会は概要版で話はできると思います。9ページの表現のところを1か所修正して、あとは全体的に、今ほどさまざまご意見をいただきましたので、それに従いまして、修正し最終版としたいと思います。ありがとうございました。

他に何かございますでしょうか。それでは、事務局にお返しいたします。

4. 閉会

(事務局)

長時間にわたり丁寧にご審議いただき、ありがとうございました。3月に教育委員との懇談会が残っておりますけれども、本日で第32期の社会教育委員会議は最後となります。大変名残惜しいのですが、最後に皆さんから、この2年間の活動を振り返った思い、感想などがありましたら頂戴したいと思います。伊井委員から反時計回りで、最後の雲尾議長まで順に一言ずつ頂戴できれば幸いです。

(伊井委員)

伊井でございます。2年間ありがとうございました。公募委員でございまして、公募委員に応募するにあたって2件だけ提案しました。一つは、何とかしてサラリーマンなどの現役の方に、社会教育に出てもらえないかと。私は昔、現役時代にサークル活動を一生懸命やったものですから、サラリーマン、あるいは会社の偉い方でも社会教育に関心を持っている人がいるのではないかとということで提案をしました。もう一つは、ボランティアを無料だと考えていますけれども、そうではなくて、有償ボランティアという取っつきにくいですから、ポイント制度のようなものを作って、皆さんが出やすい場を作るということを作文にして出したのです。それができたかということ、建議に有償ボランティアだけは入っていました。2年間本当にありがたかったです。特に2年間で一番思い出に残ったものは、やはり阿賀野大会です。小川委員などと一緒に行きました。あのときの弁当がものすごく美味しかったのです。あれは有名なブランドなんだそうですね。そして、みなさん上手に発表されたわけですが、私はそのときに、助言者ということで20分与えられたのですが、五、六分しか話せなかったのです。そのときに生涯学習になるということで、囲碁の話と落語の話をしました。今思うと恥ずかしい思いしておりますけれども、楽しい大会だったと思います。2年間本当にありがとうございました。私の年齢ですから、二度と社会教育委員にはならないと思いますが、どこかでお会いしたら、またごあいさつはしたいと思います。よろしくお願いします。

(伊比委員)

1年間、大変お世話になりました。前任の齊川委員の残り期間ということでお引き受けさせていただきました。入ったばかりで皆様方の積み重ねた昨年度までのご努力も重々知らない中で失礼が多々あったかと思えます。お許してください。今、考えているのは、学校というのはしてもらいだけでだめなのだという思いがあります。具体的にどうなれば地域の方々のために何ができるのだろうという取組みがそれぞれの学校で行われていると思いますが、会議の中で各委員の皆さん方からいただいたお話がとても参考になりました。ぜひ、学校現場で生かしていきたいと思っています。大変ありがとうございました。

(神林委員)

神林です。4年目だったのですがけれども、最初の2年は訳も分からずやってきて、3年目になってようやくつかめてきたと思います。今年4年目で、何もしてこなかったんだということを思い知らされて、すごく勉強になりました。ありがとうございました。至らなくて申し訳ありませんでした。

(田村委員)

私は中学校の校長会からということで社会教育委員をさせていただきました。社会教育委員とはというところから、この2年間、そこから勉強させていただきました。地域とかかわる活動というものを中学校でもいろいろな学校でやっているのですがけれども、それは何のためなのかという本質的なところから、社会教育委員会の会議に来ている中で、自分自身も考えさせられましたし、自分の学校の活動自体を変えていく、改善していくところにも役立ってきたのではないかと思います。大変ありが

第3 2期新潟市社会教育委員会議

とうございました。

(鶴巻委員)

西川中学校地域教育コーディネーターの鶴巻です。2期終わりそうになりました。皆さんには本当にお世話になりました。1期目は訳が分からず、何をやる会議なのか、何を伝えるか、どのような発言をするのかということが暗中模索だったのですけれども、それでも、やっていくうちに、教育ビジョンが現場でどのように実践されているのか、あるいは生徒たちがこの中でどのように成長していくのかということ、地域教育コーディネーターとしての立場でこの場で発言するチャンスをいただいたということは私の中でも大きくて、そういう立場でこの4年間はコーディネーターと社会教育委員という立場で両方のお仕事をさせていただきました。2期目は、実際に皆さんで子ども食堂を見に行ったり、あるいは西川中学校に皆さんに来ていただいて、実際に現場で生徒はこんなことをやっていて、こんなふうになるのだということも見ていただいたので、正直、読む物がたくさんあり、メールも直前にきて、少し大変な部分もありますけれども、非常に勉強させていただいた4年間でした。ありがとうございました。

(渡邊委員)

今回、委員に任命していただきまして、大勢の方々に助けられたなという感じがしております。そういう意味では、皆さん、本当にありがとうございました。当初、普段、学校に出入りしている関係もありますし、地域のこともコミュニティ協議会を通していろいろと知っていましたので、どちらかという学校を希望していたのですが、学校のほうは4人、5人となるとまずいということになりまして、社会教育施設、あまり縁のないほうを担当せざるを得なくなりました。非常に役に立ったのは、いろいろなところでヒアリング、できる限り出席させていただきまして、大いに勉強させていただきました。そういう意味では、学校、社会教育施設、地域と、要するに生涯学習の場を自分なりにある程度経験させていただいたという思いがしております。そういう中で、皆さんの多角的な視点で多々教えられる面がありまして、本当に役に立ったな。今回は特に循環型生涯学習という命題でありましたので、この課題を今度は実践していかなければならないという思いを強くしております。私は南区の老人クラブ、あるいは地元の老人クラブ、自治会、諸々のところに顔を出していますので、循環型生涯学習をするにはやはり後継者を育てなければならないという思いが強くあります。今年4月から、次から次へと権限を移譲して、担当者が変わったりして、私はおいて、次の人にやっていただくと。あるいは新しいイベント、例えば老人の認知症予防のためには何がいいかといったら麻雀だということで、麻雀クラブを南区で立ち上げた。その代表者として、私のほうから推薦して、その人になってもらった。当初、私が発起人で、規約もルールもすべて私が作り上げたのですが、会合をしたときに、あなたがやってくれと一方的にお願いしました。そのような状態でうまく回っていません。これからはますます循環型生涯学習をいろいろなところで話をし、いろいろなところで実践していけたらいいなと思っております。もう一つ、新潟県の社会教育委員も務めたことがありますが、違ったところは、新潟市の社会教育委員は非常にヒアリング、勉強に対する姿勢が多かったと思えました。そういう意味では本当に役に立った2年間でした。議長、副議長をはじめ関係者の皆さんにはお世話になりました。ありがとうございました。

(横坂委員)

公民館の運営審議委員の横坂です。とても濃い2年間でした。公民館で子育てをしながら育てていただいて、その延長上で社会教育委員となったのですが、何も知らないままここに来て、この2年間、公民館で視点を育てていただいたことが一番大きかったです。いろいろなところを視察に行って、見たこと、聞いたものを書いてまとめるという作業と、それをすると言いたくなって、周りの若い子育て世代に、あそこに行ってきたよ、ここに行ってきたよと。書いたから言えるのだな。見たままで終わっていたら、伝えるときにはばらばらだったのだろうと。書くときにこうだった、こういう問題を感じたということを書いたから、次の世代の人たちに、こんなところに行ってきたよ。私はこう考えるよということを書いた。そういう意味では、トレーニングをしていただいたと思います。社会教育委員とはどうかということが今度の大会でありますけれども、新潟市に関しては、どうやっ

第3 2期新潟市社会教育委員会議

て社会教育委員を育てるかという視点が、育ってきている現実を見ると、市のシステムとして、リーダーというか、そういう視点を持った人を育てるという視点があって、この2年間の会議があったのだなと私自身は感じております。2年間、濃くて、この後、ほかのところでいろいろな人と出会っていきますけれども、このことはとても私の身になっていったと思います。ありがとうございました。

(本間委員)

本間です。31期、32期と務めさせていただきました。振り返ると、普段の活動は学校現場に行かせていただいて、子どもたちとふれあう機会が多いのですけれども、教育というのは学校教育だけではなくて、社会教育としてもっと大きな枠組で俯瞰して見るということがより鍛えられたと思っています。特に今回建議で、地域を舞台にしたということで、伊井委員、伊比先生とやらせていただく中で、実はうちのみらいずworksの事務所に2回ほど来ていただいて、じっくりお話をする機会がありました。社会教育というのは具体の場面というのはなかなか、それぞれの立場だったり世代でいろいろと違うものだなと思いました。それをお話しできて、それをまとめていく過程をともにさせていただけたというのは、私にとってよかったです。教育をこれからも仕事にしていく中で、全体図を自分がきちんと見るができるようになりたいと改めて、社会教育をやらせていただいて思いました。ありがとうございます。

(南雲委員)

2年間お世話になりました。一番大事な時期に実の母親が体調を崩して、会議を休みがちになってしまいまして、皆様におんぶに抱っこで終わってしまったなど。特に田村委員、鶴巻委員には本当にご迷惑ばかりおかけして申し訳ございませんでした。2年前に社会教育委員を務めさせていただいて、何が何だから分からない状態で始まって、2年を終えるころには、ちょっとは理解できるかなと思ったのですが、結局は、きちんと理解できないまま、消化不良の状態が終わるような自分がいやだなと思ったのですが、先ほど神林委員と鶴巻委員の話を聞いて、少し救われたような気がします。これで全く縁がなくなるわけではないと思いますので、どこかでお会いできたときにはお話しさせていただきます。お世話になりました。ありがとうございました。

(小川委員)

小川です。皆様、お世話になりました。ありがとうございます。私も2期目で、最初の2年間は何をやっているのだろう、何をしたらいいのだろうという、1期目の方と全く同じでした。2期目に入った昨年、やっと少し様子が分かってきたのですけれども、この2年間で1個だけ心残りがありまして、何かといいますと、1か所だけ視察に行かなかったのです。あのときは別の会合が入っていたのですけれども、1期目で視察はなかったので、2期目はどこかへ行きたいとずっと言っていたのですけれども、それがかなったのに、行けなかったな、心残りというのが一つあります。ただ、毎回の会議もそうですし、後半になるとグループで作業したりする中で、いろいろな考えやアイデアなどが出てきて、すばらしいなと毎回感じておりました。2年間、本当にお世話になりました。

(雲尾委員)

皆さん、お疲れさまでございました。議長を務めさせていただきましたが、皆様のご協力があったものだと思います。文部科学省の社会教育課がなくなるということは非常に大きなことになっております。社会教育委員も危ないのではないかと。全国社会教育委員連合自体がそろそろ危ないということもありまして、長年務められた大橋会長が鈴木眞理会長に替わられて新しい体制にはなりましたが、しかしやはり今までのことができるほどの予算がない。それでも何年か先までは決まっていますので、今年は青森大会、来年は神戸大会、その次は新潟大会になるという予定になっています。そこまでは決まっているということで、あと3年はもつのかなと。その一方で社会教育委員はそれなりに大きな力を持っていて、新潟市長も全国的には応援している人となっています。こういった中で、社会教育委員がどうなるか。しかし、新潟市の社会教育委員はしっかりした足跡を残していると思いますし、それが新潟市民の社会教育活動、生涯学習活動が盛んであるということの証明でもあると思います。皆さんの2年間の活動の成果は次の教育委員とお話をして、さらに進めていただきたいと思います。あと二月ほどおつきあいをよろしく願いいたします。ありがとうございました。

第32期新潟市社会教育委員会議

(事務局)

ありがとうございました。

2年間にわたって会議で1回、視察で8回、そのほかに小委員会やグループワークなどをさせてしまっ、かなり無理をさせてしまったと申し訳なく思っています。一方で、一緒に杯を酌み交わすときもあつたり、視察先で食事をともにさせてもらうこともあつたりということで、個人としても大変仲良くしていただきいい思い出ができたと思っています。また、立派な建議を提出していただきますけれども、私どもはそれを受けとつた後、しっかりと対応を考えていきたいと思ひます。まずは代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上をもちまして、第32期社会教育委員会議を終了いたします。大変ありがとうございました。